

日本事情 レポート

佐藤千佳

目次

1. テーマメモ
 - 1 三可子さんを選んだ理由
 - 2 三可子さんについて聞きたいことと、その背景
2. インタビュー結果
 - 1 インタビューの詳細
 - 2 三可子さんの性格とその背景についてのインタビュー
 - 3 美容・理容の道に進んでいることについてのインタビュー
3. まとめ
4. この授業を通して

1 テーマメモ

私は佐藤三可子さんの文化について調べてみたいと思います。

1-1 佐藤三可子さんの紹介・佐藤三可子さんを選んだ理由

佐藤三可子さんは、私が中学一年生の時に同じクラス・同じバレーボール部だったとても仲の良い女友達です。

奇想天外な言動が多かった、面白い人なので、まだまだびっくりする、三可子さんなり文化を持っていそうだから調べてみたいと思いました。

中学一年の時にはいつも一緒に、楽しい時間を過ごさせてもらっていました。短い実例をあげると、佐藤三可子さんは必ず「マスカラ」と「マラカス」を間違えて言ったり、気分が盛り上がると奇声を上げたり（私と一緒に）、クラスメイトや先生のものまねもします。部活でもその明るさは健在でしたが、楽しみながらも、向上心を持ってバレーボールに励んでいました。私と一緒に自主トレーニングをしたことも良い思い出です。二・三年の時にクラスが替わってしまい、部活動などの時にしか顔を合わせなくなり、さらに高校は違う学校だったので、年に数回会うぐらいになってしまいました。

しかし、久しぶりに会っても気が合うし、佐藤三可子さんでなければ分かり合えない、二人の間だけでやるギャグ(?) もあって、あの楽しい時間を再現することができます。今は、他県にいますが、地元に戻ると連絡を取り合ったり、何度かメールをしあったりもします。そんな彼女は、今、美容・理容師になるための専門学校(盛岡ヘアメイク専門学校)に通って、一生懸命勉強しています。

1-2 佐藤三可子さんについて聞きたいことと、その背景

1. 『年の離れた大人とどうしてうまく喋れるのか?』

<背景>彼女の家は理容店で、地元でも有名なお店です。彼女のお父さんが、マスターなので、彼女のお家には、修業しながらお店で働く二十歳ぐらいの店員さんが、住み込みをしていて、家族以外の方が同じ家に住んでいるという状態です。それに加えて、家業が接客という仕事柄ということもあってからか、彼女は年の離れた大人の人ともとてもスムーズで、自然に話すことができます。私は話す相手の年齢が離れていると意識してしまうと、必要以上に考え込んでしまい、何を話せばいいのか分からなくなってしまうので、そんな三可子さんをとてもうらやましく思っていました。

2. 『私と違う家庭環境の中で、同じ3人兄弟の末っ子として、違うところ、同じところは何か?』

<背景>上のように、家庭環境が違いますが、3人兄弟の末っ子であるという所は私と同じです。何が同じで、何が違うかに興味があります。

<内容>小さいころはどんな事をして遊んだか、
家ではどんな話をするか、
などを聞いてみたいです。

3. 『美容・理容の勉強をしていることについて』

<背景>冒頭にあるように、佐藤三可子さん自身も美容・理容の勉強をしているし、家業も理容店です。私は、親戚などにそのような仕事に就いている人はいないので、あまり話を聞いたことがありません。

<内容>なぜ美容・理容学校に行こうと思ったのか(家庭環境からどんな影響を受けたか)、美容・理容学校自体のことについて、
を聞いてみたいです。

4. 『親との関係はどうか?』

<背景>佐藤三可子さん親子は底ぬけて明るくて、おもしろく、また、誰に対しても気さくに接していて、私が思うに、きっと彼女は親に影響されている部分が強いのではないかと思います。そして、親とも仲が良いので、いろんなことを話し合ったりして、親子の親密さも高いと思います。

<内容>私は、佐藤三可子さんの性格は、親に影響されているところが強いと思うが佐藤三可子さんはどう思っているか、
親とは仲がいいか、
などを質問したいです。

5. 『恋愛観について』

<背景>これはグループ内でのディスカッションで提案されました。

佐藤三可子さんは恋愛を前向きに考えているように思えるので、そのことは私にとっては不思議なことであり、私が体験した事のない経験があるのではないかと、興味を持ちました。私の知る限りでは、中学までは彼氏はいなかったのですが、専門学校に通ってからの恋愛については話を聞く機会がありました。高校ではどうだっ

たかは分からないので、そこも聞いてみたいです。
<内容>恋愛は自分にとってどんな意味があるか、
恋愛をして学んだこと・変わったことは何か、
などを聞ける範囲でインタビューしてみたいです。

2 インタビュー結果

2-1 インタビューの詳細

日時 2008年12月6日(土曜日) 11:00~12:05頃

(佐藤三可子さんが授業のない日に合わせました。)

場所 私：秋田市の私のアパート 佐藤三可子さん：岩手の佐藤三可子さんの自宅

手段 電話

背景 11月20日頃にメールで約束し、当日にメールで準備完了確認をしてすぐに電話をかけました。最後に会ってから半年以上経っています。

2-2 佐藤三可子さんの性格とその背景についてのインタビュー

④テーマメモで細かく分けていた項目を大きく二つに分けて、構成し直しました。

まず私が一番気になっていた、

【どうして年の離れた大人とうまく会話ができるのか？】

について聞いてみました。すると、ほぼ断定的に、

『環境によるところが大きい』

と答えてくれました。二人いるお兄さんは三可子さんとは10歳以上離れているし、お店にもたくさん大人の人がいたからだと思っているようです。

そして、これは意外だったのですが、反対に年下と話すのはあまり得意ではないとのことでした。自分がその人より年上だと、相手が自分に対して遠慮したり、気を遣われたりすることが逆に自分も気を遣ってしまい、苦手だそうです。自分より年上の人だとその人のほうから話をしてくれることが多いから、変な気を遣わなくていいと言っていました。単純に、積極的にからんでくれる人だと、話を始めれば、あとはその流れに乗って会話を進めているのだということでした。

そのような、積極的に話しかけてきてくれる年上の人のおよい例として、中学時代に私たちの所属していたバレーボール部の先輩の話で盛り上がりました。その先輩は、私たち後輩にぐいぐい絡んでくる先輩で、おしゃべりもすごく面白いのですが、ボディタッチが激しく、私たちにカン腸をしてくるような先輩でした。そのような話をしていたら、久し振りで少し緊張していた空気が、一気に和やかになりました。そこで次に私は、

【年の離れた大人としゃべることは、同い年の人としゃべると変わりはないか？】

聞いてみました。すると、

『同い年としゃべるほうが、敬語も使わなくていいから楽』

と話し、礼儀をわきまえて話すこと以外は特に気にはしていないようでした。また、

【大人と話していると自分が幼稚なことを言っているんじゃないかと、不安にならない

か？】

と聞くと、あまり間をおかずに、

『むしろそれは年下と話しているときに感じる』

と言いました。年上の人に何かを指摘されることより、年下に間違いを見つけられたりするほうが嫌で、年上の人との会話では、自分が年下であるという前提のもとに、発言内容に「甘え」のようなスペースが生まれ、軽い気持ちで言葉を口にすることができるという安心感、相手に委ねられるという安堵感があるようです。(今考えると彼女はツッコミ役よりもボケ役の方が向いているし、実際にそうでした。)

次に、そのような性格になった背景を探るために、小さい頃のことを聞いてみました。

【小さい頃にはどんなことをして遊んだか？】

と聞くと、子供のころはいたずらっ子で、特にひいおばあさんにはたくさんいたずらしたようで、

『いつも、ひいおばあさんが寝ている横の、箆笥の上に載っている置物を、箆笥の影の障子から手を伸ばして落っことして、寝ていたひいおばあさんを驚かせたり、寝ているおばあさんのまぶたに、マジックペンで目の絵を描いたり』していたそうです。ひいおばあさんもそのいたずらを面白がっていたそうです。遊び相手は共働きだった両親よりも、主にひいおばあさんや、住み込みで働く店員さんだったらしいです。幼稚園の友達と遊ぶこともあったのですが、家で遊ぶことの方が多かったようです。家に帰ると、遊び相手をしてくれる大人がたくさんいる、という環境が彼女の場合は常にあったのでした。

【生活リズムは普通の家と変わりはないか？】

聞いてみると、少し考えて、

『特に変わっているとは意識していない』

と答えてくれました。しかし実際は、他の家と違って、親が月曜日や火曜日に休みだったり、三可子さんのお父さんが、美容・理容関係の講習会などで重役を務めていらっしゃるって、遠方に出張することが月に数回あることなどを話してくれました。そこで住み込みの店員さんについては特に何も言っていなかったのも、

【住み込みの人がいることで変わりはなかったか？】

をきくと、

『物心つく前からいたので普通だったが、人数の多い時はお母さんが大変そうだった』と教えてくれました。また、店員さんの昼食を三可子さんのお母さんが作っていたこともあったそうで、あまりにも大変なので、今は各自でお弁当を持ってきてもらっているそうです。そこで、

【そのような人がいたことで自分に影響があったか？】

を聞くと、

『いろいろと教えてもらったり、勉強になった。親が共働きだったけど、家に帰ってきても一人ぼっちでさみしいということがなかった。』

と言っていました。また、これも意外なことに、小さい時はとても恥ずかしがりやで、夏休みが終わった後に、自分が宿題で作ってきた工作などをクラスで発表する時には震えるくらい緊張してしまったというほど、家の外では引っ込み思案だったらしいです。

しかし、周りに大人がいる環境だからこそ、今の自分の性格(人と接するのに積極的な性格)になったと話していました。

私は、これを聞いて、自分が年の離れた人と話すのが苦手なのは、無理に相手に合わせようとしているからなのかなと気づきました。今回の話の中にあつた、「甘え」という部分は、インタビュー中にひそかに感動しました。目からうろこでした。相手に合わせようとするのではなく、委ねてみるのだということは、考えたことはありませんでした。私はそのような姿勢がなかったうえに、三可子さんのような鍛えられる環境もあまりなかったのが、苦手になってしまったのかもしれない。

2-3 美容・理容の道に進んでいることについてのインタビュー

はじめに、

【美容・理容学校に行って、変わったこと、学んだことは何か？】

を聞いてみました。

『人と話すことが好きになった』

と三可子さんは答えました。別にもとから話すことが嫌いというわけではなかったのですが、高校の時に、男の人と話すことがあまりなかったらしく、不慣れになってしまったらしいです。しかし、専門学校に行ってから、やはり、そのような仕事をを目指す人が集まっているだけあって、男の人も、みんな気軽に話しかけてくれて、みんな仲が良かったらしく、そこで人と話すのがより楽しいことだと思えたそうです。

【なぜ、美容・理容学校に行こうと思ったのか】

も聞きました。すると、

『お父さんの姿を見て自分もやりたいと思った。お父さんを尊敬している。お父さんが理容師をやってなかったら、私もこの道には進んでなかったと思う。』

とまで言い切っていて、お父さんの存在がかなり大きいことを知りました。私は、テーマメモを書いている時点で、きっと三可子さんは三可子さんのお父さんに影響を受けていることが多いだろうなあとは予想していたものの、こんなにまで重要人物だったとは、予想していませんでした。というのも、私にとっては父親よりも母親が多くを占めている存在ですし、基本的に娘は母親を慕うのが一般的という考えの私には無い感覚だと思いました。

このタイミングで聞いたのではないのですが、ここで、三可子さんの家族一人一人と三可子さんとの関わりについて彼女から聞いたことをまとめたいと思います。まず、

【家ではどんな話をするか？】

を聞くと、以前は、学校の話や、受験の話をしていました。

現在は、お母さんとは一緒にテレビを見ていて、恋愛についての話がでてくると、二人でも恋愛について話すそうです。ですが、二人の意見がかみ合わないらしく、話してもすぐに衝突してしまい、長くは続かないそうです。

今一緒に実家に住んでいらっしゃる上のお兄さんは、少年の心を持っているらしく、幼い性格が、三可子さんをイライラさせ、いつも兄弟げんかをしてしまうそうです。お兄さんの方は普通に接してこようとするのですが、三可子さんがそれををはねのけてしまい大喧嘩に発展するそうで、あまりしゃべっていないそうです。

東京にいらっしゃる下のお兄さんとは仲が良いらしいのですが、あまり会えないようです。

そしてお父さんですが、お父さんとの会話が一番多く、三可子さんも一番聞く耳をもって会話をするそうです。話す内容も様々で、仕事のこと、将来のことなどを話し、また説教されることもあるらしいですが、お母さんに言われるよりもお父さんに言われると、黙って聞き入れるそうです。最近説教されたことは、今は、恋愛に一生懸命になるのじゃなくて、手に職をつけて、学校の勉強をして、土台をしっかり作ってちゃんと自立してから、いくらでも時間があるのだから、その時に真剣に考えなさいということだったようです。専門学校に行ってから、男の子と付き合っていた時に言われ、節度をもって考えるようになったそうです。三可子さんが言うには、三可子さんのお父さんは、お母さんよりも細かいところに気を遣ってくれて、理解力もあるそうです。お母さんは、頭の固いところがあり、理解してくれないことがあるそうです。だから、柔軟に物事を考えてくれるお父さんが話しやすいそうです。三可子さんは、お父さんのことを、家族として信頼しているし、一人の理容師としても尊敬しているようでした。

また、改めて、

【親とは仲がいい？】

と聞くと、

『うん。』

と答えてくれました。即答でした。聞くまでもなかったかもしれませんが、親に影響されたり、親を尊敬していたりすることと、親と仲がいいということは、必ずしも一致しないと考えたので、聞いてみたのです。

そして、私は、お父さんを見てきて、進路を決めたということは、かなり前から自分の道を決めていたのかな？と思い、

【長い進路選択期間で、他の仕事に魅力を感じたことはないのか？】

聞いてみました。すると、

『トリマーはやってみたいと考えたことがある』

と答えました。しかしそのトリマーも、ペットに対しての美容・理容行為をする仕事であって、やはりそのような道から、それることはなかったようです。そして、いつもお父さんの姿を見て、やっぱり美容・理容師が楽しそうだと思い直すそうです。私は、今の進路を決めるのに、本当に最後までさまざまな職種を行ったり来たりして考えていたので、この強い思い入れを持ち続けていることも魅力に感じました。次に、

【どんな美容・理容師になりたいか？】

を聞くと、

『技術も大事にするのはもちろん、態度もそれ以上に大事にし、お客さんに、この人によかったといわれるようになりたい』

と語ってくれました。人に好かれるようなスタッフでありたい、という思いは、三可子さんのお父さんを背景にしているのではないかと思います。

私は、親に対して、感謝しているし、仲は良い方だとも思うし、共働きで頑張っていることや家のことをしてくれているのは、すごいなと感じることはありますが、正直に言って、「尊敬」という言葉通りの気持ちはありません。親という身近な人を尊敬でき

るのはすごいなと思いました。

3 まとめ

今回のインタビューの中でも、やっぱり三可子さんらしく、びっくりするようなエピソードや、予想外なことがたくさんありました。

全体を通して、改めて私がなぜ三可子さんに惹かれるのかと考えたところ、彼女の「素直さ」にあるのかな、と思いました。突拍子もないことを言って私を面白がらせるのも、素直な表現者であること、前述した、年の離れた大人とスムーズな会話ができるのも、無理に自分を作りこまないで、ありのままに話をしてみる姿勢を持った人であること、自分の父親を、はっきりと、「尊敬している」と言い切れるといった、変に斜に構えたりせずに評価することができる人であること、それぞれのことが、きれいに「素直だから」で、理由をつけられることに気がつきました。

一方の私は、これも前述で、考え込んでしまって、何を話していいかわからなくなった、というのが表すように、直球でなく、下手なカーブをつけてしまったりすることがあります。自分がそうだから、私の性格では見えてこなかった部分を三可子さんは素直さを以って与えてくれるのだと思います。だから二人でいると楽しいのだとわかりました。

4 この授業を通して

まず一番に、留学生の方たちと交流することができて、とてもよかったです。やっぱり考え方や捉え方、風習や行事などの違いもありましたが、勉強に対する熱意も印象的でした。

また、前から仲のいい三可子さんと久しぶりにじっくり話すことができ、楽しかったですし、三可子さんのことをもっと知ることができて、より魅力を感じました。たった人ひとりだけれど、自分とは違う道を歩いてきたその人の中には、すごく魅力が詰まっているし、その人が今までその道で見てきたことをダイジェストで見せてもらうということは、一度しかない人生のなかで、もう一つの生き方を見ることができるというすごく貴重な体験だと思います。長い時間をかけてその人が得たものや感じた事、変わったことを聞くことは、その長い編集期間を経てなった重厚資料を手に入れたことと同じで、これから自分が体験していくことへの参考と近道の手段になると思います。

私もこれから自分の一生の中でたくさんの経験をして、噛めば噛むほど味が出てくるようなそんな魅力的な人物になるということに憧れをもつことができました。自分の文化に誇りを持って持ち続けていけるように努力したいです。